

2. 指標設定

成果指標	指標名	予防接種率の向上	目標年度	H27	指標の設定理由			
	数値	—			予防接種率を向上させることが、疾病予防になるため			
活動指標	指標	a	MR1期予防接種率	b	MR2期接種率	c	市内医療機関	d
	数値	目標	95%	目標	95%	目標	—	目標

3. 実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	H23	H24	H25
予防接種率の向上		—	—	—
		—	—	—

活動指標名	単位	H23	H24	H25
a MR1期予防接種率	%	96.5 %	95.0 %	96.2 %
		101.6 %	100.0 %	101.3 %
b MR2期接種率	%	98.4 %	96.1 %	99 %
		103.6 %	101.2 %	104.2 %
c 市内医療機関	ヶ所	26	25	25
		ヶ所	ヶ所	ヶ所
d		—	—	—
		—	—	—

4. 課題と対応

課題
4種混合ワクチンに加え、ヒブ・小児用肺炎球菌・子宮頸がん予防ワクチンが定期予防接種となり、補助金がなくなり財政的に負担増となった。
対応（改善点等）
感染症予防のため今後も更なる接種率の向上を目指す。

5. 事業費・・・H23～H25（決算額）、H26（予算現額）

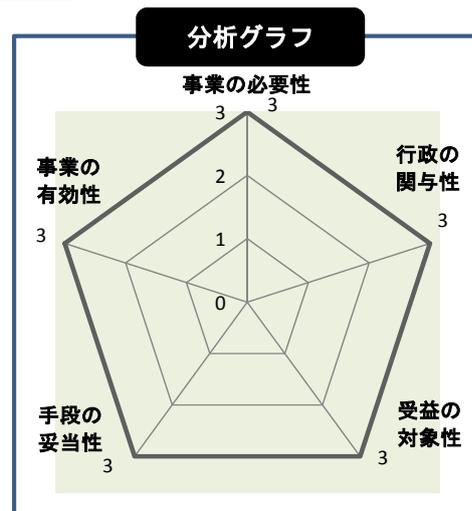
決算額（千円）		H23	H24	H25	H26
うち経常経費		90,759	78,544	56,097	99,976
うち経常		48,300	48,596	55,334	99,976
財源内訳	国費				
	県費	19,199	13,903		
	市債				
	その他	438	410	311	
	一般財源	71,122	64,231	55,786	99,976
うち経常		48,300	48,596	55,334	99,976
事業費に係る人件費		13,115	12,023	7,584	9,803
事業費に係る人役		3.05	2.80	1.74	2.21

6. H27年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
感染症予防のために有効な施策、今後も接種率の向上を目指して取り組む必要がある。高齢者の肺炎球菌に関しては、H26年10月から定期接種となり、対象者枠が広がる（65歳以上100歳までの5歳きざみ）ために予算増も考慮しておく必要がある。

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 個人または社会的感染拡大を防止するために有効である。
② 行政の関与性	責任領域の精査	3 予防接種法により、行政の責任を課せられている。
③ 受益の対象性	事業対象の確認	3 乳幼児～高齢者に至る市民全員が享受できている。
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3 身近な医療機関で接種できることが接種率向上につながる手段と判断する。
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 接種率は徐々に向上している。



8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	引き続き、接種率の向上に努めること。